日本車両　価値創造のあゆみ

創業以来、新幹線をはじめとする鉄道車両から輸送用機器、橋梁、建設機械、機械設備まで、120年を超えて社会基盤の充実と発展に幅広く貢献してきました。インフラストラクチャー創造企業として、人々の暮らしを支える様々な製品を提供しています。

世の中の主な出来事

設立~1940年代

・大不況（1873年-1896年）　・金融恐慌（1927年）
・日露戦争（1904年-1905年）・第二次世界大戦（1939年-1945年）

日本車両の主な出来事

経営安定化のため、
鉄道車両以外にも様々な機械製品等を製造

数々の日本初の製品を世に送り出す

・設立（1896）
・不況で注文が激減、機械製品の製造委託契約により経営の安定を図り乗り切る（1898）
・橋梁事業に本格参入（1926）

1950~1960年代

・朝鮮戦争（1950年-1953年）
・高度経済成長期（1955年-1973年）

鉄道事業生産の拡大
積極的に新分野を開拓し、兼業進出が本格化

貨車や特殊自動車の製造・販売が本格的に

・東証、名証に再上場（1949）
・総合機械メーカーへ転換を開始し、兼業への進出が本格化する（1955）

1970~1980年代

・第1次オイルショック（1973年-1974年）
・第2次オイルショック（1978年-1982年）

社会のニーズに応える製品開発で事業構造が変化

組織の効率化や外部企業との連携を強化

・タンクローリ1,000台突破（1970）
・農業近代化により産業機械部門やプラント部門が躍進（1972）
・新幹線1,000両突破（1989）

1990年代~現在

・バブル景気（1986年-1991年）　・リーマンショック（2008年）
・バブル経済の崩壊（1990年代初頭）　・新型コロナウイルス流行（2019年～2023年）

事業構造のリストラクチャリングを断行、事業基盤の回復

新幹線累計製造両数4,000両を達成

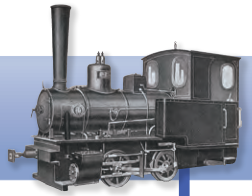
・創立100年（1996）
・新幹線2,000両突破（2002）
・民生用バルクローリ1,000台突破（2006）
・新幹線3,000両突破（2010）
・民生用バルクローリ2,000台突破（2019）
・新幹線4,000両突破（2019）

鉄道車両事業

鉄道車両／貨車／自動車その他

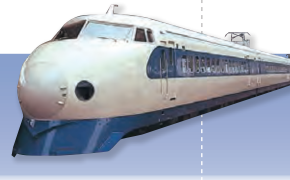
1900年日本初の私有貨車

当社初 1918 | 蒸気機関車



日本初 1927 | 地下鉄

1964 | 0系



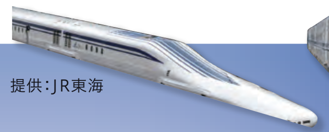
日本初 1961 | 前面展望式パノラマカー

1980 | 200系

1980 | NICTD向け通勤電車

1992 | 300系

2012 | リニアL0系



提供：JR東海

2018 | N700S

2022 | 315系　技術ブランド「N-QUALIS」の立上げ

輸送用機器・鉄構事業

輸送用機器／橋梁

1926 | 庄内橋

機関車のボイラー等の製造技術を活用

1955 | タンクローリ販売開始

1985 | 当時世界最大の700t積自走式キャリヤ

1993 | レインボーブリッジ

2019 | ML運搬台車

2023 | 国内最大積載量LNGタンクセミトレーラ

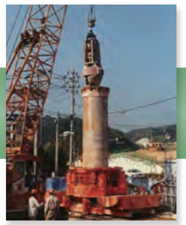
建設機械事業

建設機械

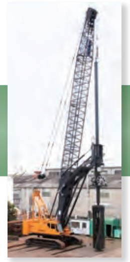
1959 | 建設機械の製作を開始

世界初 1962 | 三点式大型杭打機を開発

1987 | 全回転チュービング装置RTシリーズの開発



2011 | 日本最大級アースドリル



2023 | 障害撤去機DHRシリーズの開発

エンジニアリング事業

営農／エンジニアリング／産業機械

1966 | カントリーエレベーター

1979 | 中国宝山プロジェクト

宝山製鉄所の構内輸送設備と付帯設備一式を製作

2002 | リニモ

2017 | 先頭車研ぎ装置

2022 | トイレットロール包装機